

「なつたより」の芽かき処理の違いによる収量と果実品質（2020年）

芽かき処理	収穫果数 (個/樹)	1果実重 (g/果)	収量 ² (kg/10a)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100mL)
果こん枝2本残し	169.3	70.7	1197	13.8	0.18
果こん枝1本残し	111.0	70.4	781	13.9	0.18

² 植栽本数が10a当たり100本の場合の換算収量

現場で使える！研究成果

ビワ「なつたより」の芽かき

果こん枝2本残すと

果数増え大きさと同等

ビワ「なつたより」は「茂木」より大果で良食味になるが、樹勢が強く徒長しやすいため高木化し、収量が少なくなることで課題だ。

そこで、果こん枝（着果痕から発生した新しい）からの伸長を抑えてコンパクトな結果枝を育成するとともに、収量増加を図るため、果こん枝の芽かきの処理方法と処理時期を検討した。

その結果、ビワ「なつたより」の果こん枝を2

本残す芽かきの方法Ⅱ写真Ⅱは、従来の果こん枝を1本残す方法に比べ、収穫果数が多くなり、果実の大きさは同等となったため収量が増加したⅡ表。また、果汁糖度、酸含量など果実品質に差はなかった。さらに、7月

中旬以降に、果こん枝を2本残して芽かき処理することにより、結果枝長は短くなり、副しゅうの発生も少なく、コンパクトな結果枝となった（データ省略）。なお、7月末までに枝



芽かき

の剪定と誘引を行い、着果させる層の日当たりをよくし、枝を充実させるとともに、樹体の衰弱を避け、安定した生産を継続するため、着房率は60%までにとどめる必要がある。

（長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 ビワ・落葉果樹研究室 高見寿隆）